様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 ２４ 日現在

機関番号：６４４０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2014
課題番号：２３５２１０１１

研究課題名（和文）現代中国の人々の生活実践に関する人類学的ライフヒストリー・アプローチ

研究課題名（英文）An Anthropological Approach to Life-History: The Practice in Modera China

研究代表者
韓　敏（Han, Min）

国立民族学博物館・民族社会研究部・教授

研究者番号：１０２７８０３８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,000,000円

研究成果の概要（和文）：ライフヒストリーの手法を用い、安徽省都市部と農村の農民、行政幹部、風水師、キリスト教徒、輿の職人と老人ホーム経営者とその家族の生活実践を調査し、社会主義革命の意義とローバル化による中国の社会変化を考察した。
　また、安徽省の調査成果と、瀋陽、湖南、広東、福建などの調査データを比較し、共通項目：出産、命名、躾け、学校教育、仕事、消費、交友、恋愛、結婚、家族、子育て、扶養、エージング、死、祭祀を通して、人類学におけるライフヒストリー・アプローチの有効性を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：Using the method of life history, I investigated the life practices among famers, government officials, feng shui master, Christians, palanquin craftsman, nursing home proprietor living in urban and rural Anhui and discussed the meanings of Chinese socialist revolution and social changes due to global significance.In addition, I compared the research achievements from Anhui, with the survey data I got in Shenyang, Hunan, Guangdong, and Fujian, and I revealed the effectiveness of the life history approach from anthropological perspectives by focusing common items: birth, naming, training, school education, work, consumption, companionship, love, marriage, raising children, family support, aging, death and worship rite.

研究分野：文化人類学

キーワード：ライフヒストリー　生活実践　社会主義革命　英雄崇拝　聖地　キリスト教　風水師　輿の職人

１．研究開始当初の背景

本研究課題の申請時における動機は、次の通りである。申請者は、ライフヒストリーの手法を用い、安徽省宿州市とその周辺農村に在住している8人とその家族に焦点を当てて、人々の生活実践レベルにおける社会主義革命の意義及びグローバル化による中国の社会変化の様態とメカニズムを考察すると同時に、人類学研究におけるライフヒストリー・アプローチの有効性を再検討し、ライフヒストリーの比較研究の理論的構築を試みるところにある。

この研究動機には、三つの背景がある。

（1）これまでの中国大陸に関する人類学的研究は、漢族の場合、主として家族、父系親族集団、村落社会を対象に（Fei 1939; Fried 1953; Endicott 1988; Potter & Potter 1990；Siu 1989: 中生　1990; 聶 1992;Judd 1994; Yan 1996; Jing 1996; Liu 2000；Han 2001; 潘 2002；秦　2005；阮 2005）、少数民族の場合、主としてエスニックグループを対象に行ってきた。上記の研究は、漢族の父系親族規範、近代化における諸民族の文化・諸制度の変化をある程度解明したが、一方、個々のインフォーマントの個性を十分注目せず、集団の代表として記述する傾向が強い。ただし、先行研究の中に個人中心の研究は二つがあり、Lin Yueh-hwa（林耀華）の *The Golden Wing : A Sociological Study of Chinese Familism*（1947）と Huang Shu-min（黄樹民）の *The Spiral Road: Change in a Chinese Village Through the Eyes of a Communist Party Leader*（1989）である。

前者は、1911 年辛亥革命から 1937 年までの福建農村にある家族の運命を小説スタイルで記述した民族誌であり、後者は革命後 1989 年までの社会変化を福建アモイ市郊外林村の１人の共産党書記を通して描いた民族誌である。上記の二つの研究は、20 世紀の中国社会の動態を解明したことで評価されている一方、個別の個人と家族の記述にとどまり、同時代の他の職業・地域の人々の営みに言及せず、比較の視点が欠如している点は今後の課題として残している。また、21 世紀の中国に関するライフヒストリーの民族誌がまだ現れていないのは現状である。申請者は、先行研究の成果と限界を批判的に吸収し、ライフヒストリーの比較を通して、社会主義革命の意義及びグローバル化による中国社会の様態を考察する予定である。その意味で、本研究は 21 世紀の中国に関する初めてのライフヒストリーの比較研究であるといえよう。

（2）社会主義政権に変わって 65 年も経った現在、社会主義政権以前とその初期に活躍し、いまでも記憶をもっている人が年々少なくなっている。たとえば、申請者が 1989 から継続的に調査をしてきた安徽省の李村（当時人口 301 人）では、民国期の甲長、社会主義政権期の初代の村長、村党支部書記、農民協会会長、会計、婦人主任、労働模範、民兵排長、地主、人民公社初代の合作社社長など 22 人がここの数年の間に次次と他界している。申請者は 20 世紀最後の王朝、戦争、辛亥革命、内戦、社会主義革命を経験し、21 世紀まで生きてきた人々の生活実践に対する聞き取り調査は緊急な課題であると強く認識し、早急に取り組むべきだと考えて、本研究を企画した次第である。

（3）本企画を着想したもう一つの経緯がある。申請者は中国社会主義革命の諸制度を一つ文化システムとして見なし、20 世紀の中国革命の意味を問い続け、革命象徴の毛沢東について中国各地で聞き取り調査を行い、また、所属の国立民族学博物館で 20 人参加の共同研究「中国の社会変化と再構築－革命の実践と表象を中心に」(2004-2006)を組織し、服飾、アート、映画、社会制度、儀礼、観光から研究した『革命の実践と表象―現代中国への人類学的アプローチ』)。表象のレベルで社会主義的国民文化と体制の仕組みを部分

的に明らかにしたが、実践のレベルにおいて人々が如何に社会主義の理念と制度を受け入れ、どのように日常的に実践していたのかを解明することが出来なかった。その原因の一つは個々人に焦点を当てるようなミクロな研究が不足していたからである。

上記で述べられた個人の研究経緯と中国に関する人類学的研究の全体状況から、申請者は、複数の個人とその家族の比較研究を通して 21 世紀の中国社会に関するライフヒストリーの民族誌を構築する必要性を痛感した次第である。

２．研究の目的

申請者は、個人やその家族の人生経験とパーソナリティがより大きな社会文化的な文脈の中で機能しているものと見なし、ライフヒストリーの中で、さまざまな宗教的、経済的、政治的制度の機能的関連を見いだすことができると考えている。また、ライフヒストリーの比較研究の視点を導入することによって、ある文化の規範と逸脱の一般化、動態的文化の法則性と多様性をより有効に解明することができると考えている。

３．研究の方法

申請者は以下の視点と考察方法を用いて上記の目的を達成することを目標とする。

（１）社会主義革命のイデオロギーと諸制度、市場経済体制の下に導入されたグローバルな理念と生活様式は、農民、労働模範、政府の計画生育係り、竹職人、風水師、宗族の族長、教師、キリスト教徒、老人ホームのオーナーなどの個々人にいかに受け入れられたのか？

（２）受容された理念、諸制度と生活様式は、どのような意識と環境の下に如何に実践されているのか？

（３）15 の共通調査項目（出産、命名、躾け、学校教育、働き・仕事、消費、交友、恋愛、結婚、家族、子育て、扶養、エージング、死、祭祀）を設けて、複数の個々人と彼らの家族のライフヒストリーから、共通点と多様性を見いだす。

４．研究成果

当初の目的に応じて、ライフヒストリーの手法を用い、安徽省宿州市とその周辺農村に在住している農民、地元の行政幹部、風水師、キリスト教徒、輿の職人と老人ホーム経営者などの 8 人とその家族に焦点を当てて、人々の生活実践レベルにおける社会主義革命の意義およびグローバル化による中国の社会変化の様態を考察した。

安徽省の調査で得られた成果を中国社会でどこまで一般化できるのかを明らかにするために、安徽省以外に瀋陽、湖南、広東、福建と江蘇の都市部と農村部で、聞き取り調査を行い、調査のデータを比較することにより人類学研究におけるライフヒストリー・アプローチの有効性を再検討し、当初設けた 15 の共通調査項目を通して、社会主義革命の多様な実践を明らかにし、ライフヒストリーの比較研究の理論的構築を試みることができた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 8 件）

① 韓敏 2015「序論・近代社会の指導者崇拝に関する人類学的アプローチ」韓敏編『近代社会における指導者崇拝の諸相』（国立民族学博物館調査報告 127）pp5-13 大阪：国立民族学博物館　査読有り

② 韓敏 2015 「近代中国における毛沢東崇拝の成り立ち」韓敏編　『近代社会における指導者崇拝の諸相』（国立民族学博物館調査報告 127）pp35-60　大阪：国立民族学博物館　査読有り

③ 韓敏 2014 「英雄崇拝」国立民族学博物館編『世界民族百科事典』pp216-217　東京：丸善出版 査読なし

④ 韓敏 2014 「花嫁の輿、花轎」『月刊　みんぱく』5 月号 pp8-9、国立民族学博物館 査読なし

⑤ 韓敏 2014「毛沢東バッジの語りと活用」武内房司、塚田誠之（編）『中国の民族文化資源　南部地域の分析から』pp25-62 東京：風響社 査読有り

⑥ 韓敏 2013 「悠久の中国、ビジネスの中国」　編者代表　吉原和男『人の移動辞典　日本からアジアへ・アジアから日本へ』pp386-387、東京：丸善出版。

⑦ HAN Min 2013 Chinese Society and Ethnicity: Anthropological Frameworks and Case Studies. MINPAKU Anthropology Newsletter 36: 10-11.

⑧ 韓敏 2012 「毛沢東の生誕地　韶山―社会主義近代国家の新聖地」星野英紀、山中弘、岡本亮輔（編）『聖地巡礼ツーリズム』pp.206-211　東京：弘文堂 査読なし

〔学会発表〕（計１　件）

① 韓敏 2013「日本の中国人類学研究の課題と方法論―国立民族学博物館を事例に」国際シンポジウム「中日の人類学・民族学の理論的刷新とフィールドワークの展開」（2013.11.18）　中国社会科学院民族学・人類学研究所　北京（中国）

〔図書〕（計 2 件）

① 韓敏 2014『近代社会における指導者崇拝の諸　相』（国立民族学博物館調査報告 127）大阪：国立民族学博物館 125 ページ

② 韓敏・末成道男 2014『中国社会的家族・民族・国家的話語及其動態――東亜人類学的理論探索』（Senri Ethnological Studies 90）大阪：国立民族学博物館 278 ページ

〔その他〕
ホームページ等
http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/organization/staff/han/index

６．研究組織
(1)研究代表者
韓　敏　（HAN Min　　）
国立民族学博物館民族社会研究部・教授
研究者番号：10278038